

令和元年 11 月の解説（府県天気予報）

【11 月の天候状況】

上旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化しましたが、東日本と西日本は大陸から進んできた高気圧に覆われやすかったため、晴れた日が多くなりました。西日本太平洋側の降水量の平年比は 1% となり、1961 年以降で 1 位の少雨となりました。北日本は、低気圧の通過後に一時的に冬型の気圧配置となって寒気の影響を受けた日があり、北海道地方では雪が降った所がありました。沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けにくく、降水量は少なくなりました。

中旬は、北日本では発達した低気圧が繰り返し通過したため、期間の中頃や終わりには北海道地方では暴風雪となった日がありました。低気圧の通過後には冬型の気圧配置が強まり寒気が流れ込んだため、北日本日本海側では雪や雨となり、北海道日本海側ではまとまった雪となった所がありました。東日本と西日本では、天気は数日の周期で変わりましたが、大陸から進んできた高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。18 日には日本海を進む低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込み、各地で夏日を観測するなど、期間のはじめと終わりを中心に気温が平年を上回る日が多くなりました。沖縄・奄美では、期間の中頃まで高気圧に覆われやすく晴れた日が多くなりましたが、期間の終わりには前線や寒気の影響で曇りや雨となり、18 日には前線や湿った空気の影響で大雨となった所がありました。

下旬は、東日本・西日本太平洋側では低気圧や前線、湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、22 日から 24 日は本州南岸を前線を伴った低気圧が通過したため、関東甲信地方や九州南部では大雨となった所がありました。一方、北日本・東日本日本海側は冬型の気圧配置となりにくく、しぐれとなる日が少なくなりました。降水量平年比は、北日本日本海側で 33%、東日本日本海側で 27% となり、それぞれ 1961 年以降で 1 位（北日本日本海側は 1 位タイ）の少雨となりました。期間の前半は、北日本、東日本、西日本で南からの暖かい空気が流れ込みやすく、気温は平年を上回る日が多くなりました。沖縄・奄美では、22 日に台風第 27 号が接近して大雨となった所があり、その後も前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

【11 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)と同じ 85%で、明後日予報は例年値よりも 2 ポイント高い 83%でした。地方別の適中率では、明日予報は北海道、東北、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。明後日予報は、北海道、東北、関東甲信、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.3℃で、中国地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.2℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1 月の天気予報の利用にあたって】

1 月は、日本海側の地方では、冬型の気圧配置となって風が強まり、雪や雨の日が多くなります。日頃から大雪や暴風雪に備えて下さい。また、太平洋側の地方では晴れる日が多くなり、空気が乾燥して火災が起きやすくなる一方で、日本の南海上を低気圧が通過する場合などには雪が降り、少しの積雪でも交通機関の運行などに大きく影響することがあります。天気予報とともに、大雪や暴風雪についての警報や注意報、最新の気象情報、また乾燥注意報の発表状況に留意して下さい。